



学校だより

～立花小学校は令和5年3月に創立150周年を迎えました～

たちばな

2024年1月31日

尼崎市立立花小学校
校長 植木 加代子

節分から立春へ 新たな気もちで凡事徹底

「鬼は外、福は内」節分が近づいてきました。立春の前日が節分です。節分は立春、立夏、立秋、立冬の前日のことで、正確には年4回あるそうです。しかし旧暦では立春が一年の始まりとされ尊ばれたことから、その前日の2月3日を季節の分かれ目である節分とし、大きな行事となったようです。立春の新年を迎える前に、邪気=病気や悪い心など=鬼を追い出そうと、さまざまな行事が行われるようになりました。豆をまいたり、葉にとげのあるひいらぎの葉や臭いの強いイワシを玄関に飾ったりして鬼を家の中へ入れないようにしました。一方、福=幸運や健康、豊かさを迎え入れるため、豆を年の数食べたり、近年では巻き寿司をその年の恵方をむいて丸かぶりしたりもします。本来はその地方によって独特の風習がありましたが、今は情報の速さやビジネスによって全国に広まった風習も多々あります。ともあれ、2月3日の節分では邪気を払い、4日の立春には心身ともにすがすがしく、健康にスタートをきりたいものです。ちなみに今年の恵方は東北東だそうです。この度被災された地域にも、一日も早く元の生活が戻ることを祈っています。

スタートと言えば、28日に行われた大阪国際女子マラソンで、尼崎市立小中学校を卒業した前田穂南選手が、女子マラソン日本記録を更新する快挙を成し遂げました。心から拍手を送りたいと思います。今回のレースは、パリオリンピック代表の残り1枠を競う強いプレッシャーとの闘いでもありました。ケガや不調に見舞われながらも夢をあきらめず、今回のレースでは日本記録を出すんだとの強い気もちで積極的に走ったそうです。そんな彼女も高校の駅伝部では控え選手だったとのこと。子ども時代に芽が出なくとも、自分はここまで、と限界を決めないでチャレンジし続けることが夢につながるということを、前田選手は示してくれたと思います。人生のどこで花開かわからないものだと思います。エピソードの中で印象に残ったのは、お父さんが32キロ地点の苦しいポイントで応援していたけれども、たまたま沿道を走ってしまったとの話です。前田選手も、その姿が見えて一層頑張れたとのこと。たまたま、という親心が身に沁みます。孤独に耐えて努力を積み重ねる人と、支える家族や応援者がいて花開くのだと思いました。心から称え活躍を祈りたいと思います。それは、立花小学校の皆さんについても同じです。いのちある限りいつか花開くと信じています。

先日、学校に来られた方に「この学校の子どもたちは、みんなきちんと挨拶してくれますね。感激しました」と言っていただきました。朝の門では皆きちんと挨拶してくれるのですが、外では気恥ずかしいのかおしゃべりに夢中なのか、なかなかできていないという話も聞いていたところでしたので、大変嬉しかったです。当たり前のことを丁寧にできる(=凡事徹底)力を身に付けられるのは、小学生という発達段階ではないかと思います。学校だけでなく、公共の場でも同様にできると、信頼からひいては夢や可能性を切り拓く基礎力になるのではないかとも思います。生徒指導からも出ている「立花っ子5つの約束」を“新年”ということで再度紹介します。大人も心がけると気もちがよいですね。

「立花っ子5つの約束」①気もちのよい挨拶をしよう (笑顔で相手の顔を見て)

②はきものはきちんと揃えよう (はきものが揃うと心が揃う)

③ろうかや階段は静かに歩こう (時間にゆとりをもって落ち着いて)

④静かにそうじをしよう (自分から汚れをみつけて時間いっぱい)

⑤安全に気をつけて遊ぼう (想像力を働かせて思いやりをもって)

凡事徹底で、邪気を払い、福を呼び込みましょう。